

基礎生物学研究所・生理学研究所の創設30周年を祝って

岡崎市長
柴 田 紘 一

このたび、自然科学研究機構基礎生物学研究所、並びに生理学研究所が創設 30 周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

昭和 52 年、生物科学総合研究機構の創設に伴い、基礎生物学研究所と生理学研究所が設置され、その後の国立学校設置法の改正により分子科学研究所と生物科学総合研究機構は統合され、岡崎国立共同研究機構として一体的に運営されることとなりました。

その後、国立大学法人法の施行により平成 16 年 4 月、両研究所は、分子科学研究所とともに国立天文台、核融合科学研究所を加えた 5 機関で構成される「大学共同利用機関法人自然科学研究機構」の一員として再編されるなど、大きな変革の時を迎えられました。しかし、世界最高峰の研究機関としての使命は変わることなく、両研究所は創設以来、幾多の優れた研究成果を発表されるとともに、開かれた共同利用研究機関として高度な水準を維持し、国内はもとより、国際的にも高い評価を受けてこられました。また、研究体制の整備や人事交流を活発にし、世界での時代を担う研究者の育成にも力を注がれ、新しい世紀をリードする役割を果たしてこられましたことに、心から敬意を表する次第でございます。

本市は平成 16 年 12 月、自然科学研究機構との連携のなかで、「岡崎国際学術研究交流特区」として認定を受けました。これにより、自然科学研究機構に在籍する外国人研究者の滞在条件が緩和され、研究活動の活性化と研究成果の産業化を通じた新産業の創出という、産学両面での社会的、経済的な効果を期待しつつ、これを機会に、世界的な機構の研究者の方々と本市産業界の新たな交流につながることが期待されるところです。

これまで、本市においては自然科学研究機構の協力を得て、生涯学習の一環として開講される岡崎市民大学への講師の派遣のほか、各研究所の一般公開、市内の小中学生が世界最先端の研究活動に直接触れる機会を提供する「おかざき寺子屋教室」や「親子おもしろ科学教室」、「出前授業」の開催、中学校理科副読本の作成など教育分野において格別なご指導を賜っておりますことに、厚くお礼申し上げます。とりわけ、学校教育における理科離れ、理科嫌いが指摘される中、子どもたちの発見する喜びと科学的な見方を育成する上において、大きな教育効果が期待されます。将来、科学を志す多くの研究者が、岡崎から育ってってくれることも夢ではないと思います。

岡崎からは、これまで世界的に有名な金属物理学者本多光太郎博士や遺伝学者木村資生博士を輩出しております。今日、貴研究所に全国、世界中から優秀な研究者が集い「OKAZAKI」の名をこの上なく高めていただいておりますことは、本市にとりましても誠に名誉なことであります。どうか研究者

の皆様には岡崎を第二の故郷として、今後とも研究にご精進され、素晴らしい業績を挙げられますことをご期待申し上げます。

終わりに、創設 30 周年を契機として、基礎生物学研究所、並びに生理学研究所が日本の中枢的研究機関として、また、国際的な研究拠点として今後一層発展されますことを祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。